

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】(Cフロア)

事業所番号	2795200027		
法人名	社会福祉法人なみはや		
事業所名	グループホーム桜ノ宮なごみ		
所在地	大阪府大阪市都島区中野町1丁目12-11 アロンデール3F		
自己評価作成日	令和2年11月14日	評価結果市町村受理日	令和3年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和2年12月9日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である(利用者様・職員・地域の方々すべての人々の尊厳を大切にすること)という事を常に意識しながら、生活の質をより良いものにするように日々支援に取り組んでいます。近くには桜ノ宮公園もあり春には盛大に花見を行っています。花見にはご家族や同グループの施設からも参加いただき、つながり交流を大切にしております。また母体である東和病院の開催する一年1回のバス旅行では毎年300人以上参加され、利用者様、御家族共に楽しんで頂いております。医療面でも充実しており、看護師が常駐、母体の東和病院から訪問看護来所。双方とも情報交換を行い医療面でも連携が取れています。終の棲家と考えられている利用者様、家族様にとっても安心して利用して頂ける施設です。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有するために事務所はもとより、各フロア詰所にも掲示しています。またそれを実践につなげることが出来るよう介護記録にも掲載しており、毎日の申し送り時には各スタッフには諸読してもらっています。フロア会議では実践状況等を確認しあっています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通し地域連合の会長様とは連絡を取り合っており合っています。近くの小学校より子供達が踊りに来てもらったり、ハロウィンのお菓子配布の協力もしております。地域ボランティアの方々には紙芝居・笠踊り・盆踊り等の様々なイベントの協力をいただき、利用者様との交流を試みております。そのようにして利用者様が地域の一員となれるように取り組んでおります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に運営推進会議を通して、他施設・地域包括の方から様々な認知症の周辺症状・初期症状等についてご相談を受けたり、ご指導を受けたりしています。また認知症ケアのプロとして、色々なアドバイスや、アイデアを提供し、それを生かして頂けるように、その場しのぎではない継続的な対話を会議で持っていました。また現在コロナ禍で会議が開催できない状況ですが、管理者と「地域包括はFAXにてのやり取りを継続しております		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では様々なアイデア・アドバイスを出し合うだけでなく、改善につなげることが出来るような助言、時には厳しい目での評価をして頂くこともあります。頂いた助言に関しては、ケアの質向上をさせることが出来るように役立てています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に運営推進会議を通してですが、区役所担当部署職員の方と密に連携を取り、介護についての区の催し等には極力参加しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止に関する研修を年2回事業所にて開催しております。具体的な行為を全職員が理解し、実践につなげるよう努力しています。日々スタッフ間で“これって身体拘束かな？”等話し合いながらケアを行い拘束ゼロを意識させています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修を事業所で行っています。“何が虐待にあたるのか”の周知 またそれが起こらないようにする為にはどうしたらよいか、スタッフ間で意見を出し合いケアに反映させるように努めています。スタッフのストレスにも気を配り多くコミュニケーションを取るように努めています。2か月に1回衛生委員会を開催しスタッフのメンタルチェックも半年毎に行っています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部より講師の方をお招きし、研修を開催し、スタッフが学ぶ機会を設けています。あらたに成年後見制度につなげる機会はいまだ無いのですが、それらを活用する機会があるときは、関係者の方々とスムーズなやり取りができるよう各職員には知識・情報を入れております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前には必ず、利用者様所在地を訪問し、家族様同席のもと契約書・重要事項説明書等の説明を行っております。また家族様の不安や疑問を引き出せるような話し方も心掛けております。入居前には施設内、居室等も見学頂き、十分に納得して頂いた上で契約を交わしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の意見要望は、面会に来られた時に伺っております。何でも話せるような関係づくりに努め、些細な事でも相談して頂いています。頂いていたご意見要望を運営推進会議の場で話し合い、それを運営に反映させるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・フロア会議を通してスタッフからの意見・提案を聞く機会を設けております。とくにフロア主任はスタッフとの密な関係に努め、意見、提案等をお互い言いあえるような関係づくりをしております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事の堅実な実践において、プライベートな時間というものが非常に重要です。よってスタッフの希望休申請が多くとも、シフトを作成時にそれを全面的に反映させています。またスタッフ同士けじめをつけて楽しくコミュニケーションを取りながら仕事をすれば、やりがい・向上心をはぐくむと思っていますので、それを意識した職場環境作りを心掛けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフとは常日頃から密にコミュニケーションを取り、一人一人ケアの質を高めることが出来るように、アドバイスをしたり、相談にのったりしています。それらを日常化する事で、スタッフ一人一人のケアの力量も把握する事ができています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人グループないのスタッフとの交流が主です。相互に意見交換や提案、アドバイス等を通じ、時には愚痴を言いあったりもしますが、それらすべてサービスの質の向上につながっていくものだと思います。また施設間同士でイベント等をするときには訪問しあい、多岐にわたった交流活動を通じて相互の向上に取り組んでいます。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず、全職員が本人様の不安点やニーズを引き出していき、それらをスタッフ同士で共有しながら本人様のニーズに沿った声掛けの仕方、傾聴の仕方を工夫し、なんでも気軽に話せる関係づくりを目指しています。そこからより良い信頼関係を築けるよう努め、結果的にそれが本人様の安心につながると考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークの段階で家族様の表面化している不安点は説明し払拭できるように努めています。また面会に来られた時には、親御様の日々の様子はもちろん、様々な話題についても話をさせていただき、気軽にどんなことでも仰っていただけるような信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	例えば、誤嚥性肺炎で退院されたばかりの方の入所となると、再度の入院防止策として、訪問歯科の必要性を説明し、サービスに組み込むようにしています。また拘縮のある方に対しては、鍼灸治療を提案し筋肉をほぐしてもらう施術の説明を行うようにしています。それら専門職の方々から日常生活における指導を賜り支援に生かすようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	まず職員は、利用者様は人生の先輩であるという尊敬の念をもち接しております。共に調理をするときなどは、味付けのアドバイスをいただいたり、プライベートな相談にのって頂いたり、相互に支えあう関係づくりに取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様を支えていくのには、家族様との絆の重視し”共に支える”ことを相互に心がけています。催事やバス旅行の際には家族様の負担にならない範囲でケアの協力を求めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の御友人や親せきの方々から手紙が良く届きます。出来るだけ本人様に返事をして頂き、日々の生活が分かるよう、写真も同封したりしています。またご家族様にも協力いただき、馴染みの場所や、住んでいた地域までお出かけしたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性や、仲の良さ、また好き嫌いと関係性も様々です。それは人間として当たり前の事です。毎月スタッフ間では協議を行い席替え等しながら利用者様それぞれがより良い関係性が持てるように努めています。またお手伝いをしてもらう時には、何人かの利用者様と一緒にして頂き、助け合い支えあいながら、色々な事ができるように支援しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後(ご逝去・入院・他施設移転)も、本人様・家族様が気軽に連絡・相談できる関係づくりに努めています。また利用終了後にご家族が当施設のイベントに参加して下さったり、本人様から手紙が届いたり、出会った方々との関係を大切にするよう努力しております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様が希望や意向を伝えるのが困難であっても、認知症ケアのプロとして日々の生活の中からそれらを見極めてフロア間・スタッフ間で協議しながら本人様の意向や希望を導き出せるように努めていきます。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前のアセスメントで本人様・家族様・かかりつけ医等から生活歴・なじみの物・人伺うようにしています。また入居後も家族様からの情報は非常に重要と考えており、それをスタッフ間周知して支援にあたっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日利用者様の心身状態は変化するので、それらをスタッフ間で把握しながら日頃のケアにあたっています。また本人様のできる事、出来ない事というのも、サービス利用の経過に伴い変化するので、日々柔軟な考えで様々な事に取り組んで頂けるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、家族様、スタッフと協議し、本人様の課題を的確に見極めて必要に応じたケアができるよう介護計画を作成しております。また本人様の状態が変わらない場合でも職員間で協議してさまざまなアイデアを出し合いながら介護計画の追加変更を行い、現状に即した支援ができるように努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録・業務日誌を基にして、スタッフ間でカンファレンスを行い、情報共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしています。介護記録は出来るだけ丁寧に記入し、全職員が読んでもわかりやすいよう、遅陽者様の言動や仕草一つ一つを細かく記入するように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、御家族のニーズに対応”できません”がないように、かかりつけ医・ご家族様・本人様・スタッフで協議し既存のサービスに捉われない柔軟な支援に取り組んでいます。医師より入院の指示があった場合でも、本人様・ご家族がそれを望まれていない場合は、医師、看護師としっかりと連携を取り当施設で過ごすようにしてもらっています。上記の本人様家族様の医師に添うよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の小学生、紙芝居、盆踊り等の地域のボランティアの方々に来所して頂き、イベントに参加してもらっています。また区民祭りや天神祭りにはスタッフと共に赴き、くじ引きや屋台での買い物等楽しんでもらっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2～3回の内科訪問診療、週1回の歯科訪問診療、2週間に1回の精神科訪問診療と医療面がりますが、受診の際には必要事由と金額を説明し必ず家族様の了承を得られてからの受診になっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常駐看護師と訪問看護師がいます。日々看護職員と介護職員は密にコミュニケーションを取りあい、報告、協議をしております。また夜間帯も24時間医療体制を取っており、看護師と連絡を取ることが出来ます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	母体である東和病院の医師・ソーシャルワーカー・看護師とは訪問看護師を通じて常に情報を収集できるようにしております。また当施設に訪問診療で来所された医師、看護師にも利用者様の日頃の状態を報告し、特変があった場合はその前後の様子も交え報告し、風通しの良い環境作りをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化するより早い段階から終末ケアのあり方を本人様・家族様に伺っています。状態が刻一刻と変化していく経過中では家族様の気持ちも変わっていく場合もあり、常に連絡を取り合いながら希望に沿った終末期を迎えれるよう、医師、看護師と協議しています。特に当施設での看取りを希望された場合は、毎日医師、看護師、介護職員と情報を交換し希望に沿った終末ガム帰れるように支援を努めています		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や救急搬送のマニュアルを作成しスタッフには周知、訓練を月1回行っています。しかし実際の現場を目の当たりにしたときすべての職員が冷静に対応できるのは難しいと思われる。実践力を身に付ける為にも、救急車要請時、医師への連絡等は、なるべく職員と共に行い、職員のレベルアップにつなげています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練、防災訓練を実施して、通報、消火、避難誘導等全職員が身につく様に努めています。またねん階は消防団員来所にて、火事防災に関するレクチャーを頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃よりフロア会議、全体会議を通じて、個人情報保護や接遇に関する研修を行いスタッフに周知徹底をしています。また、利用者様の立場に立った声かけを行い(トイレ誘導・入浴、更衣時)誇りや、羞恥、プライバシーを損なわないよう支援に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自身の希望の表出や自己決定の困難な利用者様に対しても、本人様の真意を読み取り、本人様の希望の添ったケアが行えるように心がけています。また声掛けの仕方もクローズクエシジョンで答えられるように工夫しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールを決めてしまうのではなく、本人様の希望に沿った支援を行っており、食事・入浴・排泄等の時間を個々に合わせたりしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様にその日の洋服を選んでもらったり、月一回の訪問理容にお誘いしています。時には近くに衣類の足りないものを買に行く付き添いをしたりしています。また本人様希望の嗜好品については家族様に連絡し面会時もしくは郵送でお手元に届く様にしております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様のできる範囲で食事の配膳、盛り付け等を職員と共に行い、後片付食器洗いも職員と共におこなっています。また食べたいもの、日頃食することが出来ないものを聞き取り、定期的に外食にお連れしたり、イベント等開催し提供したりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様お一人お一人、体重、既往症、DMその日の状態等のより変化があるので、個々に対応した支援を行っております。総合的な栄養管理は食材契約をしている業者の栄養士が行い、水分に関しては一日1200CCを目安に摂取して頂いております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛け、出来ない方には口腔ケアを行っております。また週1回歯科医・歯科衛生士の来所により治療・口腔内清掃を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促すよう努めています。プライバシーの観点から声かけにも気を配り、トイレと訴えが困難な方には職員がアンテナを張り、その気配に応じた対応をするように努めています。また家族様からの希望もあり、失禁の多い方でも布パンツを使用し、トイレ誘導の回数を増やすように工夫しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じて牛乳やヨーグルトを提供したり体操散歩で全身を動かしてもらったり、様々な工夫をして排便を促すよう取り組んでいます。また医師と相談をし効果や副作用を十分検討したうえで、薬の処方を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決まっていますが、本人様の状態や、気分の乗らない時などは状況に応じて入浴日や時間を変更して実施しています。また入浴前のバイタルチェックは欠かさず行い、訴えを表出することが困難な方の体調、顔色、顔つきを把握しながらのケアに取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に入居者お一人お一人のペースに合わせて臥床、離床して頂いております。”まだ寝むい”と言われ方には朝食時間をずらして対応しております。日中食席での傾眠が見られる方にも声かけを行い、居室で横になってもらうよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は利用者様の命にかかわることなので、全職員緊張感をもって、服薬の管理にあたっています。服用している薬の種類はもとより、効果・副作用、併用してはいけない薬、食材等を全職員は把握しています。また日々利用者様の状態観察を行い、変化があればすぐに看護師へ報告を行うことを徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中や御家族からの情報を基に個々の生活歴や、かつての職種を収集し、やりがい喜び、楽しくしてもらうような役割や、レクリエーションを日々の支援に取り入れています。皿洗い・洗濯物たたみ、おしぼり作成の様な事でも本人様には自分の役割だと認識してもらい、自信と達成感を感じられています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に本人様の希望の添い散歩を行っております。年間行事として花見・天神祭り・区民祭り・外食レク・バス旅行を行っております。また日頃行けないような場所を聞き取り家族様同行可能な場合は外出されています。(コロナ禍の中外出は行えないことが多かったです。緊急事態宣言解除され、感染の終息と思われた一時期のみの記載になります)		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の困難な利用者様は職員が一時預かりしております。買い物時には職員が付き添い、自身にて精算されるという行動は、たとえ1つの物を買われても満足されています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は本人様が自由にできるように支援しています。本人様が字が書けない、うまく言葉を伝えれない場合は、職員が代筆、代読し、ご家族や親せき、友人との関係を大切にするような支援に努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節を感じられるような職員手作りの設営や写真を飾っており、入居者様の希望に応じたテレビ番組や音楽を流し、穏やかに過ごして頂けるようにしています。またリビング、居室の温度・湿度はしっかり管理し居心地の良い空間作りに取り組んでいます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人お一人が気ままに過ごせるよう、席の配置等は日々試行錯誤しています。仲の良い方と共に過ごしたり、時には違うテーブルの方と話をしたり、自由に移動して頂き、またお一人で過ごしたい方にはテレビ前のソファーに行かれたりして思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は基本にご本人様と家族様の自由に使っていただいております。お孫様の写真を飾られている方、大好きな阪神タイガースのポスターを貼られている方、様々です。プライバシーの観点からオムツ交換等は扉を開けた時に外から見えないように配慮させてもらっています。また安全面から配線等は利用者様からは見えないように配置させてもらっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を重視しすぎると、リスクばかりに目がいき、利用者様のストレングスを奪いかねません。転倒のリスクがある利用者様に第拭きをしてもらうときは、職員が横につき見守る。自身で食事を摂ることが困難な利用者様でも、時間をかけてゆっくりと召し上がって頂く、職員は最低最小限度だけ支援するという取り組みを行っており、自立支援を目指しています。		